家庭から要求をほり起そう
当面の主婦会活動

合理化による低賃金、生産第一主義の人命無視、物価高など資本の体制的合理化攻撃に対して夫たちは、生産点における斗いとして命を守り、五人組による抵抗組織の強化で日夜がんばっています。主婦会も組織強化をして、地域組織を内面から充実させる活動をすすめることになりました。

そのために、まず会員みずからの自覚をたかめる運動として、毎月一回の学習会とあわせて、組織の土台となる家庭の民主化をはかる家族会議の実施を行って、家族の結束を強めてきました。その内容については、月間、年間のテーマを作成し、その貼布活動を行っています。その一つとして、子どもの問題をとりあげました。

健全な子どもにそだてる

独占資本の合理化強行政策は主婦を内職へと追いやり、家庭においては子どもから母親をひきはなす結果となりました。そのため家庭での子どもとの交流を少なくしていますが、その結果、家庭環境が心配されてきました。

主婦としては家庭生活を守ると同時に、明るい未来像を勝ちとる運動の必要性を痛感し、この日常斗争のなかから子どもの問題の解決をはかる論議をかわしました。

子どもに信頼される父母に

子どもたちは父母との生活を通じて、家庭教育を受けながら成長しています。たとえば、父母が地域や主婦会の組織活動に信念をもって活動し、地域社会における責任ある行動は、子どもにとっても無責任な行動はとれないという気持をおこさせます。父母の考え方や行動が、このように子どもにあたえる影響のあることを見おとすことはできないと思います。

子どもとともに

父親は職場での疲労、母親も仕事先からバタバタ帰宅して夕食の準備やかたづけなどで、子どもの話しかけなどにうるさがる傾向にあるのではないでしょうか。母親は子どもたちと話をふかめるなかで、友だちや服装の変化、遊びや勉強などの生活に気がつくのではないでしょうか。

話しあう機会が少ないことが、この変化をみのがし、気持の把握を怠り、親の考え方をおしつけることになりますが、話をおしつけるより聞き上手、よき相談相手になるという態度が、お互いに話しやすく親しみも増すことだと思います。

健全な子どものグループ活動をそだてよう

不良化の原因問題はいろいろあると思いますが、友だちの問題もその一つかと思います。下校から夕方親が帰ってくるまでの時間は友だちを中心にして一日がくりかえされ、友だちの良否が子どもの考えや遊びなどにつながることは当然なことです。

この問題の解決は、地域においての話しあいによる〝健全な子どもの社会環境づくり〟が大切だと思います。

それはあくまで大人の社会の延長でなく、子どもによる自主的なグループ活動の育成が強く感じられます。この運動の成果は、地域の具体的展開のなかで創意工夫され、研究され、子どもたちのエネルギーが結集できる配慮がなされるように努力をしなくてはならないと思います。

新年を迎えて

新年を迎え過ぎ去った一年をふりかえって見ますと、公私共に多事多難の年でありましたが、その中でももっとも私たちの印象に残ることは、昨年末宮浦支部に新らしく新労組より仲間を迎えたことです。

私たちは三池斗争以来すでに五年有余、会社の人道を無視した差別と弾圧の中にあって、私たちの行動の正しさを確信し、近き将来必ずこのような事態が生まれてくることを心中ひそかに期待しつつ、耐乏生活を続けて参りましただけに、その喜びは言葉に尽せぬものがありました。

一方、新労組・会社側にとっては、正に砂上の楼閣を動かすに足る大きな「ショック」であったことは、いまさらいうまでもないことでしょう。数においてこそ問題にならぬことでしょうが、その意義は誠に大きなものであったと思います。

池の面にできた小さな波紋が段々と大きく、やがては池いっぱいに広がって行くことを、あるいは一本のマッチの火がやがては燎原の火のごとく燃え広がって行くことを私たちは知っています。せっかく芽生えたこの新しい芽を、私たちはしっかりとやさしく暖く護り育て上げることこそ、新年度の大きな課題でもあり、生活と命を守る斗争を有利に展開し得るための大きな要素ともなるものではないかと考えます。

新しい年昭和四一年度も、私たちにとってはまだまだ決して安易な年ではないようです。政府は日韓条約の締結に基づいて低賃金の韓国人を日本の石炭産業及び水産業に大量雇用の計画を着々と進めているようです。これが実現の暁には、私たちの生活がどのようなものになるか新労及び組夫の皆さん方も十分知っていただきたいものです。

労仂条件は悪くなり、賃下げ、労仂過重、炭鉱災害の続出は当然考えられることではないでしょうか。私たちは何が何でもこのような地獄の鉄鎖をたち切るべく、新労及び組夫の皆さんの家族へもよびかけ、手を握り、生活と命を守る斗いに決起すべき、意義ある年ではないかと思います。共に頑張ろうではありませんか。

敷島町　前川トシ子

放送劇 さぞやお月さん

全国高校選抜野球大会で昨年三池工業高校が、初出場、初優勝した。選手として出場した、港務所新港社宅の池田和浩君をめぐる三池の話題を、堀田清美作、宇野重吉、山本安英ら出演による「第二〇回芸術祭参加作品」〝さぞやお月さん〟として、昨年一一月二七日朝日放送で放送された。

この放送劇の録音は、三池労組に保管し、貸出しを行います。

家庭生活を高めるために (5)
子どものしあわせ

石川　保

学校・学校外・家庭のチームワークで

テレビで「ちびっこのどじまん」がありますが、あれについていろいろな意見があります。それは別としても、審査員に出ている阿部進さんは、あれでいて、なかなか考え方はしっかりしています。「現代っ子」について、いろいろな本を書いていますが、私たちにとっても、なかなか参考になることが多いのです。阿部さんの考えは「家庭教育が学校教育の下請け機関になりさがっている」ことを強くうったえています。

私も、これについては大賛成です。（これについては前にもふれましたが）新しい教育の体制は、学校、学校外、そして家庭、この三つがどれ一つ欠けてもうまくいかないものになります。そして今の特徴は〝学校外〟における子どもに対する影響力は、とても大きくなってきていますし、逆に〝家庭〟での影響力が少なくなっているのではないでしょうか。家庭教育が、子どもたちを学校に送りだしてあげるという仕事と、学校から帰ってから、翌日の準備や予習・復習的な勉強を親の監督下でさせるという、いわば学校教育の下請け機関になりさがっているといえます。

社会の動きと子ども

終戦後、子どもを育てる家庭教育は、だいぶかわってきました。

①何もしてやれなかった時代（敗戦から二五年ぐらいまで）

②衣食はどうにか確保したが、住居まではまわらなかった時代（二六年から三〇年ごろまで）

③どうやら落ちついてきた時代（三一年から三四年ごろまで）

④レジャー、電化がさかんで、何でもしてやれる時代（三五年から以降）

の四つの区分によって考えられると思います。

子どもの教育に政治的自覚を！

しかしこれと同時に、「教育」をもっと国家で統制していこうという動きと、レジャー時代の無思想、無方向的な小市民的生活をたのしむ方向が生まれていることです。さらに安定して当分かわりそうもない政治というムードづくりそして社会的泰平ムードから「有名大学から有名会社へ」のコースが、家庭教育の最大のねがいであるかのような考え方が多くなってきつつあります。

その中でハッと気がついたとき高校へ入れない子どもがあふれている現実に、母親の力でどうにもならない壁。それにぶちあたっていこうとする親たち、これとまったく反対に無関心な、親の考えに子どもをはめこんだ方が、子どものしあわせだと信じこんでいる親もいます。この親の中の多くは、戦後子どもからおとなへ成長し、親となった人びとが含まれていることに、私たちは考えさせられるのです。

（つづく）

「抵抗日記」(2)
水仙の花

港務　柿坂　敏

よそ行きのためおそく帰ってみると、高校二年になる次女が真新しい文学全集の「罪と罰」を、くい入るように読んでいた。「ホープ」と、私も古い友にでも会ったなつかしい気持で、内容の感想などきいた。そこまではよかったのだが、四九〇円というケースの定価表を見て娘が可哀想になり（娘の月ぎめのこづかい銭は五〇〇円である）生活の知恵でも教えるつもりで、つぎのようなことをいったので一大論争となった。

【私の意見】

事実に文学を愛し、理解しようとするためには、たくさんの作品に接することが大切である。五〇〇円というかぎられたお金で新刊書を買うということは不合理だろう。古本屋に行けば五〇〇円で三冊くらいの作品を買うことができるだろう。女学生の単なるアクセサリーとして新刊書を買うのなら別だが……。以上が私の意見の要約である。

【娘の意見】

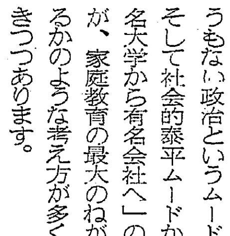
お父さんは生活の知恵というがその意見はけっして生活の知恵ではなく、生活のアカだ。お父さんは、真新しい、だれも手アカをつけていないインクのにおいのプンプンする本、一カ月のこづかい銭を犠牲にして求めたときの感激、こんな感激はお父さんの青春時代にはなかったのだろうか？

私はシュンとなるようなショックを受けた。自分が生活の知恵と思い、よりどころにしていたものが悲しい生活のアカだったとは……。

【そして私の収穫】

差別の苦しい日々のなかで、いつのまにか娘に指摘されるほど生活のアカが私の考え方にこびりついていると思うと、ホロにがい悲しみがにじんできた。しかし娘が苦しい斗いのなかでこんなに情操豊かに、すくすくと育ってくれたことが今夜の大きい収穫だった。

私は自分でも整理のつかない、悲しいような、うれしいような気持で、娘の机にかざられた水仙の花の白さが眼にしみるほどなつかしかった。失った大事なものを発見したときのように……。



生野菜不足に注意
二月のくらし

○…日ざしが明るくなるとガラスのよごれが目だってきます。お天気のよい日にガラスみがきをしましょう。くもりガラスの油気はキハツ油かアルコールを脱脂綿につけてふくととれます。春のカーテンの準備も整えておきましょう

受験期が近づき、本人よりもまわりが気疲れしがちです。なるべくのんびりした空気のなかで、ゆきすぎらないよう、子供の気持やからだに注意しましょう。

○…暖かいものが好まれる冬はとかく生野菜が不足がち。ビタミンCの不足はかぜをひきやすくし思わぬ大病ともなります。一日に最低ミカン一個、大根おろし一回は食卓にのせましょう。もやしのおいしい時期、さっとゆでてカラシあえやごまあえにするとさっぱりします。暖房用の火を利用して塩こんぶ、貝、小魚などのつくだ煮や煮豆を気ながに煮ておくのも便利です。油アゲにさっと熱湯をかけて表面の油を流しとり、上下をはがし袋にして焼き、なかにさらしネギを少量つめてしょう油、大根おろしをつけていただくと、酒のさかなにも手軽でおいしいもの。